

2021年12月20日

東急不動産株式会社

持続可能な暮らし心地や環境貢献の実現に向けてリブランディング

「BRANZ（ブランズ）」は“環境先進マンション”へ

2030年度までに全新築分譲マンションをZEH、来年1月から長谷川博己さん起用の新CM

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：岡田 正志）は、国内外で環境問題に関心が高まっていることを受け、住宅事業および基幹ブランドである分譲マンション「BRANZ（ブランズ）」で環境重視の取り組みを積極化いたしますのでお知らせいたします。2030年度までに全ての新築分譲マンションでZEH※を標準仕様にするほか、「BRANZ」では、さらに持続可能な心地よい暮らしと環境貢献を実現するため、新たな発想や仕組みを積極的に取り入れた“環境先進マンション”を提供していくことを決定しました。ブランドスローガンを「環境先進を、住まいから。」と定め、2022年1月からは俳優の長谷川博己さんを起用した「BRANZ」の新CMを放映致します。

今回の住宅事業のリブランディングでは、ブランドスローガンと行動指針を新たに設けました。住宅事業全体では「住まいを、未来のはじまりに。」をブランドスローガンに制定。分譲・賃貸・学生レジデンス事業など住宅事業の全領域で「社会課題を、暮らし心地に変えていく」という行動指針のもと、住宅事業を通じて“誰もが自分らしく、生き生きと輝ける未来の実現”を目指してまいります。

新たなスローガンのもと、これからの住まいづくりを通じて、社会課題の解決に向き合いながら、今まで以上に快適な住まいと新たなライフスタイルを提供してまいります。

* ZEHとは、「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の略称で、断熱や省エネルギーなどのエネルギー消費低減と発電によるエネルギー創出を総合して、年間の一次消費エネルギー量の収支をゼロにすることを目指した住宅です。集合住宅であるZEH-Mには、Nearly ZEH-M（75%以上省エネ）、ZEH-MReady（50%以上省エネ）、ZEH-M Oriented（20%以上省エネ）等があり、これらを当社取り組みの対象に含みます。

■ ブランドスローガン制定などの背景・概要 ～「BRANZ」は住むという概念を進化～

脱炭素社会の進展、自然環境や気候変動、生活スタイルの多様化など、不確実で先の読みにくいこれからの時代においても、「誰もが生き生きと輝ける未来」を実現するために、東急不動産ホールディングスグループは今年5月に長期ビジョン「GROUP VISION 2030」を定めました。それに伴い、住宅事業においても、環境・社会課題の解決に向き合いながら、持続的でより快適な暮らし心地と、魅力的なライフスタイルの提供を実現するために、リブランディングを実施しました。

さらに2006年に誕生した住宅事業の基幹ブランド「BRANZ」についても、「住む」という概念を進化させ、これからの時代に合わせて提供価値を見直し、新たなブランドアイデンティティを制定しました。

東急不動産【ブランズ】

BRANZ

環境先進を、住まいから。

BRANZ 新ロゴ

住まいを、未来のはじまりに。

快適に暮らせる住まいがあっても、
未来そのものがなければ意味がありません。
わたしたちは考える。いちばん長く使う住宅こそ、
いちばん地球にやさしくあるべきだと。
だから、東急不動産はグリーンな住まいをつくる。
すべての人が、健やかに気持ちよく暮らせる未来のために、
これからも「住む」という概念を進化させていきます。



住宅事業タグライン・ステートメント

住まいは、生きている。

移り変わる暮らし、多様化する価値観、変化する地球環境。
いつの時代でも、一人ひとりに合った幸せを生み出せるように、
「住む」という概念を進化させていく。

何十年、何百年先になっても、住む人はもちろん、
そこに住まない人からも愛される、グリーンな住まいであるために。
BRANZは、これからも変わり続けます。

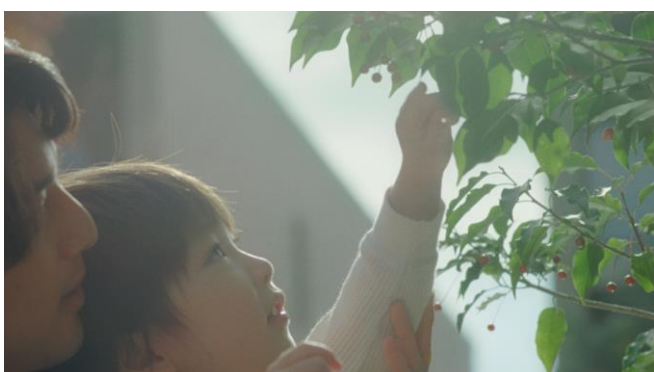
環境先進を、住まいから。

BRANZ

BRANZ タグライン・ステートメント

■ 「BRANZ」新CM、「環境先進を、住まいから。」～俳優の長谷川博己さんを起用～

2022年1月よりオンエアとなる「BRANZ」新CMでは、長谷川博己さんを起用し、「BRANZ」のアンバサダーとして、本当にあるべき住宅とは何かを問い、東急不動産の住宅づくりの姿勢を一緒に考え、伝えていただく内容となっております。長谷川さんが訪れる、大自然の中に暮らす動物の住居は、いわば“究極のサステナブル住宅”。「未来を見据える存在」として、そこからヒントや着想を得ながら、「BRANZ」に還元し進化させていく。そして、従来のマンションとは一線を画し「今までにない環境先進マンションを目指すこと」を真摯に宣言するところから、物語は始まります。



BRANZ 新CM

■ 当社の住宅事業における環境への取り組み

① 2030年度までに全ての新築分譲マンションにおいてZEHを標準仕様に

今後、開発する分譲マンション「BRANZ」においてZEHの推進を拡大し、2030年度までには全ての新築分譲マンションにおいてZEHを標準仕様化いたします。住まいの居住性を維持すると共に、家庭部門の脱炭素化に貢献いたします。

② 再生可能エネルギー発電施設を併設したマンション

今後、開発する分譲マンション「BRANZ」、都市型賃貸レジデンス「COMFORIA（コンフォリア）」、学生レジデンス「CAMPUS VILLAGE（キャンパスヴィレッジ）」の全物件で太陽光パネルを標準搭載いたします。発電した再生可能エネルギーは、共用部の電灯分の電力の一部として利用し、一部物件では余剰分を売電します。

③ 再生エネルギー100%利用の分譲タワーマンション～ブランズタワー谷町四丁目～

マンション高圧一括受電供給の最大手の「Next Power 株式会社」より、再生可能エネルギー由来の非化石証書を有する環境価値を付加した電気の供給を受け、再生可能エネルギー由来の電力を高圧一括受電方式で提供することで、実質再生可能エネルギー100%の分譲タワーマンションとします。本物件のご入居者様は、従来の電気料金・ガス料金と同等のコストで、再生可能エネルギー100%の電力をご使用頂くことが可能です。

④ 全戸EV充電器対応の分譲マンション～ブランズ上目黒諏訪山～

温室効果ガスの排出削減・吸収を実現する活動「カーボンニュートラル」に向け、今後2035年までに新車販売で電動車100%を実現する、という将来を見据え、総戸数19戸に対し、19区画の自走式平置き駐車場を完備しました。充電器もコネクタを差し込むだけで充電がスタートし、満充電で自動停止する過充電防止機能を備えております。1戸にEV充電器が1台あることで、順番待ちなどなく充電できます。

当社では分譲マンションやオフィスにおける積極的な緑化など様々な環境対応を進めて参りました。今後も住宅事業で様々な環境対応を推進し、立地や建物条件等、個別の物件に合わせた環境対応をしてまいります。

■ 東急不動産ホールディングスグループの環境対応について

事業環境変化に柔軟かつ迅速に対応し、グループ総合力を生かした成長戦略により「価値を創造し続ける企業グループ」を目指し、当社は、これまで再エネ発電所を全国に開発中も含め70事業、定格容量1,253MWを展開しており（2021年10月末時点）、再エネ発電所の開発に大きな強みを有しております。また当社の再エネ事業 ReENE（リエネ）は『脱炭素化社会の実現』『地方経済の発展』『日本のエネルギー自給率の向上』を目的にしております。東急不動産ホールディングスグループでは、こうした気候変動対策やSDGsの達成といった大きな社会課題に向き合い、サステナブルな社会をつくることを事業の大きな柱とし、『WE ARE GREEN』のスローガンの下、今後ますます社会的意義が高まる再エネ事業をさらに拡大していくことを目指しております。

■ 長期ビジョン「GROUP VISION 2030」の取り組みテーマとSDGsの取り組み

東急不動産ホールディングスグループは、本年 5 月 11 日に長期ビジョン「GROUP VISION 2030」を発表しました。「WE ARE GREEN」をスローガンに、誰もが自分らしく、いきいきと輝ける未来を実現します。価値を創造し続ける企業グループをめざして、重視する社会課題から抽出した 6 つのテーマに取り組み、SDGs の達成に貢献していきます。

本リリースにおける取り組みテーマ（マテリアリティ）

ウェルビーイングな街と暮らしをつくる

サステナブルな環境をつくる

貢献する SDGs



東急不動産ホールディングスグループ「GROUP VISION 2030」について
<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/group-vision-2030/>